（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財　務　会　計　論　Ⅰ	2単位	選択必修

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄	**時間:** 研究室に表示 **場所:** 513	

〔科目の概要〕

財務会計とは、企業がその株主・債権者・従業員などのステーク・ホールダーに対して、その企業に関する財務情報を提供する会計をいう。企業の社会的影響の大きさと、会計が人間の行為であることにより、財務会計には会計基準というルールが必要となる。近年の企業活動と投資のグローバル化および情報化の進展により会計基準の国際的統合が進展し、国際財務報告基準(International Financial Reporting Standard)が現代財務会計のグローバルスタンダードとなっている。そこでは株式投資に役立つ予測指向の会計が前面に押し出され、業績の指標である利潤の概念が実現ベースの「純利益」から発生ベースの「包括利益」に変換されている。また ESG 投資といわれるように持続可能な経済発展に向けて財務報告自体も社会責任報告と一体化した「統合報告」(Integrated reporting)が主流となりつつある。

進め方として、まず、会計学基礎論で学んだ内容について基礎理論を交えながら復習し、徐々により進んだ理論や計算を扱っていく。概念フレームワーク、金融商品、リース会計、キャッシュ・フロー計算書、および連結財務諸表等を学びながら、会計マインド(基本的な考え)の修得を目指す。もちろん日商簿記検定２級１級の受験にも配慮する。

会計は単なる計算と思っている人がいるが、もしそうであれば会計はすべて AI に取って代わられているだろう。粉飾決算、脱税、横領、贈収賄等の会計に係わる事件が後を絶たないのは、会計そのものが人間の判断に負うところが大きいからに他ならない、検定試験では解答しやすいようにあらかじめ問題が整理工夫されているが、現実の会計では複雑に入り組んだ企業の経済活動をいかに専門的な観点で分析し、解釈し、判断するかが問題なのである。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・会計学基礎論に引き続き、より本格的な会計学を学ぶ。財務会計論は会計情報が生み出される過程とその理論的根拠を学修することに焦点が置かれている。その理解を前提として、財務分析、監査論、税務会計およびNPO会計等へと展開する。
・日商簿記検定試験2級以上の内容。そして難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式)・会計学(論文式)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立つ。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

会計学基礎論との連絡を意識して、基礎基本の確認からはじめ、徐々に、高度な会計処理とその理論へと少しずつ内容を深めてゆく。常に理論と計算を並行させ飽きない授業にしたいと考えている(商業高校等で学ぶ「財務会計」よりも高度である)。最終目標は日商簿記１級程度の会計学と商業簿記である。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

- 内容が難しいという意見が多くなってきたことから、取り上げるテーマを厳選し、その分、より丁寧に説明していきたいと考えている。
- 計算問題演習を多くしてほしい要望がある一方で、解説時間が不十分という指摘もある。限られた時間を考慮すれば、授業で取り上げる演習問題の量は必然的に制約される。さらなる演習は基本的に自修となる。

〔教科書〕

八田進二・橋本尚『財務会計の基本を学ぶ(最新版)』同文館出版
＊このテキストは、財務会計論Ⅱでも引き続き使用する。

〔指定図書〕

桜井久勝『財務会計講義(最新版)』中央経済社

〔参考書〕

適宜紹介する。演習問題としては市販のものを各自の目的とレベルに合わせて活用されたい。

〔前提科目〕

「会計学基礎論」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

① 確認テスト (30%) 期末テスト (50%)
② レポート (10%)
③ 随時、出席確認を行う。(10%)

〔評価の基準及びスケール〕

グレード表記	評　　点	グレード・ポイント
A	80 点以上	4.00
B	80 点未満 70 点以上	3.00
C	70 点未満 60 点以上	2.00
D	60 点未満 50 点以上	1.00
F	50 点未満	0.00

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本学でも公認会計士試験合格者や税理士試験科目合格者が誕生している。受講者が会計プロフェッション(国税専門官等も含む)の道にチャレンジすることを期待している。

〔実務経歴〕

銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、会計学基礎論の学修を踏まえ、中級程度の会計処理とその背後にある理論を学ぶ授業である。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと会計とは 内　容:講義の進め方と財務会計の意義 教科書・指定図書 本シラバスおよび 教科書 第1章 第 1・2 節
第2回	テーマ(何を学ぶか):複式簿記の仕組みと財務諸表 内　容:財務諸表の作成 教科書・指定図書 第1章 第 3・4 節
第3回	テーマ(何を学ぶか):財務会計の基礎理論 内　容:会計制度 教科書・指定図書 第2章 第 1から4 節
第4回	テーマ(何を学ぶか):財務会計の基礎理論 内　容:会計公準と概念フレームワーク 教科書・指定図書 第3章 第 1から4 節
第5回	テーマ(何を学ぶか):企業会計原則 内　容: 一般原則について 教科書・指定図書 第4章 第 1から8 節

第6回	テーマ(何を学ぶか):貸借対照表の基礎概念 内　容:貸借対照表の本質と評価基準 教科書・指定図書 第5章　第 1から4 節
第7回	テーマ(何を学ぶか):資産会計 内　容:現金預金の会計 教科書・指定図書 第6章 第 1・2 節
第8回	テーマ(何を学ぶか): 資産会計 内　容: 金融商品の会計 教科書・指定図書 第6章 第 3・4 節
第9回	テーマ(何を学ぶか):資産会計 内　容: 棚卸資産の会計 教科書・指定図書 第6章 第 5 節
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):確認テストと資産会計 内　容:確認テスト、有形固定資産の会計 教科書・指定図書 第7章　第 1 節
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):資産会計 内　容:減価償却の会計 教科書・指定図書 第7章 第 1 節
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):資産会計 内　容:総合償却、無形資産・ソフトウエア・研究開発費の会計 教科書・指定図書 第7章 第 2 節
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):資産会計 内　容:減損会計、繰延資産 教科書・指定図書 第7章 第 3・4 節
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):リース会計 内　容:リース取引の考え方と会計処理 教科書・指定図書 プリント配布
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内　容: 補足説明と問題演習 教科書・指定図書 プリント配布
定期試験	